

ALUMNI AND ALUMNAE NEWS NO.1

令和2年3月に第1期 教職実践高度化専攻（教職大学院）院生が2年間の学びを終え、柳林専攻長から一人ずつ教職修士（専門職）の学位記を受け取りそれぞれの道に巣立っていきました。教職大学院では、高知県の課題解決に向け、院生それぞれ自らが設定した研究課題に沿った研究活動に邁進し大きな成果を残すことができました。

学校運営コースの坂本興彦さんは「学校経営計画の効果的な運用の方策〈若手教員＋ミドルリーダー＋管理職〉による効果的なOJTシステムの構築」、澁谷具恵さんは「学校組織マネジメントの研究～地域協働参画による～」、教育実践コースの杉田亮介さんは「構成的グループエンカウンターを取り入れた不登校児童の予防的・開発的実践」、竹本佳奈さんは「児童生徒の学びを生かしたつながりのある中学校英語の授業の開発」、平林香里さんは「支持的基盤のある学級づくりにつながる道徳授業の在り方に関する実践的研究」、村田由香梨さんは「数学科における主体的・対話的で深い学びにつなげる授業改善」、そして特別支援教育コースの小川裕代さんは「知的障害特別支援学校における実態把握に基づいた指導の追求と教育相談技術の向上」、近藤沢磨さんは「フィンランドにおける自立活動と個別の教育支援計画の研究」、名倉忍さんは「小学校低学年児童への学習困難に対する個別の教育支援計画の研究」、奈良雅子さんは「発達障害を有するもしくは発達障害の支援が有効な子どもへのチーム支援」、畑山ふみさんは「特別支援教育における自己理解と言語的表現の支援」、弘田幸嗣さんは「発達に課題のある生徒の把握と適切な指導方法の確立」、山浦祐香さんは「特別支援学校における就学前教育と義務教育の接続」について研究し、それぞれの成果は各学会発表や学術論文として公表されています。

4月から現職派遣院生11名は学校や教育委員会等で勤務し、ストレートマスター修了生2名は教員として教壇に立っています。ここでは、教職大学院で学んだ「理論と実践の融合」から自己成長を遂げ、高知県の教育現場の中核的存在になり、即戦力として教育現場で活躍している様子と、できるだけ多くの教員への波及効果を目指して日々奮闘している様子を語ってもらいました。

【学校運営コース】

坂本興彦さん 「学校経営計画の効果的な運用の方策〈若年教員＋ミドルリーダー＋管理職〉による効果的なOJTシステムの運用」



昨年度の実践研究では、経営計画の適切な作成や効果的な活用に必要ないくつかのマネジメント・スキルを解明するとともに、OJTを通して体系的かつ自覚的にそれらを習得する必要があること、このOJTシステムを機能させ個々の教員のマネジメント・スキル獲得と経営計画の作成及び実質化をサポートする役割を担う統括的な教員が学校組織に必要なこと、を明らかにし、そこに主幹教諭を位置づけることが適当であることを提案しました。今年度は自らが主幹教諭となり、構築したOJTシステムを運用・改善すること、小規模校でも運用可能とすること、を視野に実践しています。

【実践内容】①教職員参画で学校経営計画を策定し、学校の目指す方向性や取組の共有を図る。②この学校経営計画を実質化する細案として分掌経営計画や学級・教科経営計画を作成し、評価指標に基づく進捗評価の実施でPDCAサイクルの確立を目指し、学校の組織性を高める。③マネジメント・スキル習得を目的とした、主幹教諭によるトレーニングを行う。

澁谷具恵さん 「学校組織マネジメントの研究～地域協働参画による～」



本年4月より高知県教育委員会事務局生涯学習課に勤務しています。教職大学院在籍中に研究に関わる助言や地域コーディネーターアンケート実施へのご支援をいただいた課でもあり、大変深いご縁を感じています。これまでに経験したことのない業務もありますが、チームや上司の方々のサポートのおかげで日々を過ごすことができている。現在は、教職大学院で研究していた「地域との連携協働」に関わる「地域学校協働活動推進事業」の担当をさせていただいており、高知県内の各市町村担当者の方々とのつながりを大切にすることを心がけています。業務に携わる中で、コロナ禍においても、地域の子どものためにと心を砕き、サポートし、共に活動して下さっている地域の方々や学校と地域をつなぐコーディネーターのご尽力を感じる事が多くあります。10月、11月に、「地域コーディネーター研修会」を開催する中で、現場の生の声を活動の充実につなげていきたいと思っています。時代の流れの中、教職大学院の学びの形も変わってきていますが、先生方をはじめ院生皆様のご発展とご多幸を祈念いたしますとともに、皿鉢ゼミでお会いできることを心待ちにしております。

【教育実践】コース

杉田亮介さん 「教職大学院での学びを 高知県の学びに」



4月から高知県教育委員会事務局人権教育・児童生徒課で勤務し、人権教育に関する業務に携わっています。担当業務として、人権教育主任連絡協議会、学校ネットパトロール事業、研究指定校への支援や学校等での研修講師等があります。全ての業務において、エビデンスに基づく仕事の心がけ、チーム・組織の一員としての仕事への取組、前例踏襲ではなく常に改善の意識を持った業務を行うよう心掛けています。特に、研究指定校や学校等での研修においては、昨年度の研究内容も取り入れ、各学校の先生方に伝えている最中です。また、昨年度の研究の延長として「セルフコントロールがつく自己理解・他者理解のワークブック」や「改訂版

子どもの言葉で問いを創る授業」の執筆活動に参加させていただきました。今後とも、自己研鑽をしていき更なる学びにつなげていきたいと思っています。

竹本佳奈さん 「高知県教育センターと高知大学教職大学院」



4月から高知県教育センターで勤務しています。私は研究開発・グローバル教育担当として、調査研究及び資料提供、高知県教育公務員長期研修生の指導、高知南中・高等学校グローバル教育に係る支援、県内4カ所にある教科研究センターの運営、大学や専門機関等との連携という多岐にわたる内容の業務を行っています。また、中学校英語の教科研修を行っています。大学院で中学校英語の指導について研究したことが直接現在の業務に関わっていて、研修を受講する先生方をおして私の研究の実証をいただいていると感じます。大学院を離れましたが、古口高志先生が長期研修生の指導をしてくださっていること、指導主事が行う教職を目指す

大学生のための授業のとりまとめを私が担当していることにより、何かと高知大学との縁があります。微力ではありますが、学校教育と高知大学が手を結ぶお手伝いをしたいと思っています。

平林香里さん 「支持的基盤のある学級づくりにつながる道徳授業の在り方に関する実践的研究～3年目を迎えて～」



私は、教職大学院を卒業し在籍校に戻り、3年生の学級担任をしています。2年ぶりの現場と学級担任ということもあり、当初は不安もありました。しかし、実習で関わってきた学級の担任ということもあり、2年間の研究を継続してできる環境にいることに感謝をしつつ、生徒と共に過ごせることの喜びを日々噛みしめています。また、本校では研究主題に「支持的基盤」という言葉が入っており、学校全体で支持的基盤のある学級づくりにつながる道徳授業や教科指導等が実践できるよう、カリキュラムマネジメントに取り組んでいます。私自身、2年間で得た知識や技能、様々な学びを、先生方に還元し、共に子ども達の為に力を尽くすことを目標としています。研究については、本年度も継続して総合単元的な道徳学習を意識した年間計画の作成や、アンケートの実施、指導案作成などを行っています。

ます。教職大学院での2年間は、私にとって教師生活の貴重な財産です。2年間の学びを無駄にすることなく、高知県の子ども達のため、高知県の教育のため、日々、自己研鑽に努めていきたいと思っています。

村田由香梨さん 「数学化を意識し、深い学びをめざした中学校数学科の授業づくり」



土佐市立高岡中学校に勤務し、2年生の学級担任、また、数学科の担当としてタテ持ちを実践しています。忙しいながらも、楽しい日々を過ごしています。教職大学院では、数学学習理論に基づく教材開発と授業デザインを中心に研究し、特に数学化理論と What-If-Not ストラテジー理論をはじめとする問題設定による深い学びを実現する授業デザインについて実践的に検証を行いました。現在は、研究の中で開発した授業を引き続き実践し、成果や課題を明確にし、ブラッシュアップを図っています。数学化を意識し、深い学びにつながる授業を行うとともに、着実に学力の向上につなげていくにはどうすればいいのか、他の数学科の教員とともに教科会で教材開発・教材研究、指導法の検討を重ね、試行錯誤しながら日々実践しています。2年間、教職大学院で研究してきたことだけでなく、教職大学院の様々な講義で学んだことを活かし、学校現場でさらに尽力していきたいと考えています。

で教材開発・教材研究、指導法の検討を重ね、試行錯誤しながら日々実践しています。2年間、教職大学院で研究してきたことだけでなく、教職大学院の様々な講義で学んだことを活かし、学校現場でさらに尽力していきたいと考えています。

【特別支援教育コース】

小川裕代さん 「実態把握に基づいた指導の追求と教育相談技術の向上 ～アセスメントの実践的活用～」



勤務校の附属特別支援学校に戻り、学級担任をしながら特別支援教育コーディネーターとして、校内外の研修に携わっています。校内では、全教員を対象にした発達検査学習会を行い、検査方法や解釈について学び合うことができました。研修後、在籍児童生徒の発達検査を実施し、アセスメント結果に基づいて、学習グループの見直しや指導内容の見直しを行い、2学期以降の実践に生かすことができています。地域支援では、保育士研修会や小学校の研修会に講師として参加させていただき、参加者の悩みや問題点等を知り、特別支援教育の追求に努めております。今後も更に研鑽を積んでいきたいと思っております。

近藤択磨さん 「フィンランドにおける自立活動と個別の教育支援計画の研究」



私は、フィンランド教育における幸福感の観点から日本の自立活動について研究していました。障害による困難に対して、児童生徒がより主体的に改善・克服を図ることができるようになるために、どのような環境設定や指導／支援が必要なのかを学ぶことができました。

現在は、高知県立盲学校に勤務しています。児童生徒の安心できる環境を整え、児童生徒が自身の良いところと課題の両方を受け止めながら、主体的に学習に取り組むことができるように心がけた日々の実践を行っています。大学院で学んだ「理論」と、現場で学ぶ「実践」の往還を忘れることなく、これからも精進していきたいと思っております。

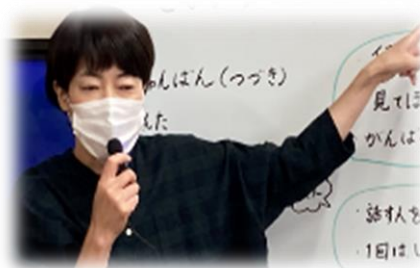
名倉 忍さん 「MIM を活用した読みの流暢性指導を校内で取り組むために摸索中」



卒業後、現場に復帰することができ、支援学級担任として異学年複数の児童を預かっています。在学中は、学習困難の中でも「読みの流暢性」に焦点を当てて研究しました。引き続き、「読みの流暢性」の力を向上させるため MIM（多層指導モデル）の特殊音節指導教材を活用し、指導ニーズの高い児童らへ少人数指導を行っています。担任をしながら MIM の指導を実施することは時間的にも難しく、やり方を未だ摸索中です。

10 月には、LD 学会でポスター発表をすることができました。この期間は、久しぶりに院生活で味わった研究モードになり、いろいろな発見がありました。

奈良雅子さん 「チーム支援の1年草ならぬ、多年草をめざして！」



高知若草特別支援学校子鹿園分校で、小学部主事、特別支援教育コーディネーターを担っています。チーム支援による、効果的な課題解決と専門性の向上をめざし、今年は学部運営や校内研修にチーム支援の種まきをしています。授業づくりや子どもへの指導・支援についての「どうしよう」「うまくいかない」という先生方の声を「チャンス」と捉え、教員が問題を一人で抱え込まずに、チームでアイデアを出し合い、検討していく場づくりをしています。新しい試みには壁もあり、一足飛びに成果は出ませんが、同じ思いを抱く仲間や若い先生方の姿に励まされています。今年限りで終わらず、「来年も続けていきたい」と先生方が効果を実感できるようなチーム支援の枠組みの構築を模索中です。

【特別支援教育コース】

畑山ふみさん 「教職大学院での学びとご縁に感謝しています」



この4月から高知県教育委員会事務局高等学校課に勤務しています。学校現場とはまた違う環境に当初は慣れないこともありましたが、生徒を支援することに違いはなく、業務をとおして今までとは違った視点や考え方を得ることができました。現在担当している業務では、在学中にお世話になった先生方にお助けいただく機会が何度もありました。教職大学院での学び以外にも貴重なご縁をいただいたことに、本当に感謝をしております。卒業後も研究を続け、9月に予定されていた学会でポスター発表を行う予定でしたが、残念ながら発表論文集での掲載という形になりました。在学中には思いもしなかった状況が新型コロナウイルス感染症によってもたらされ、研究の中での「自分の思いや考えを表現できない」生徒にとっての手立ても、これまでと違った視点が必要になるのではないかと考えさせられました。今後も、今の職場で新たな視点や考えを得ることができたからこそ考えられることや

その感覚を大切にしながら、研究してきたことを最大限に生かしていきたいと考えています。末筆になりましたが、教職大学院のますますのご発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げます。また皆様にお目にかかれる日を楽しみにしています。

弘田幸嗣さん 「発達に課題のある生徒の把握と適切な指導方法の確立」



今年度から、西部教育事務所管内の中学校にはじめて設置された「通級による指導」教室を担当しています。入級生徒はもちろんのこと、引継ぎを受けていない生徒の中には、発達の凸凹による困難さを抱えている生徒が少なくありません。そこで、新入生に対して、入学直後の学力テストとMIM-PMアセスメントテストをスクリーニングに活用して相関を図りました。結果として、相関係数は大学院での研究結果に近い値であり、その有効性が証明されました。結果は、職員会で共通理解を図る資料として活用し、日々の教育活動に活かされています。

さらに、「ひらめき体験教室」や「障害理解教育」の授業等、大学院での学びや研究成果を実践に取り入れることで、特別支援教育の啓発を教職員や生徒に向けて行っています。保護者に向けては、社会情勢の変化によって未実施のため、今後実施できるよう計画・立案するつもりです。

山浦祐香さん 「教員生活が始まって」



私は、現在長野県の特別支援学校で教員をしています。今まで実習などで子どもと接することは多くありましたが、「先生」として自分のクラスの生徒を持つことは初めてです。教職大学院では、「就学前教育と義務教育の接続」について研究を進めていましたが、今は高等部に所属しているので、卒業後の就職への引継ぎに焦点を当てて、また、学んでいきたいと思っています。北欧の教育について興味を持ってくださっている先生方もいらっしゃって、大学院での学びを報告する機会もいただいています。教員生活が始まってまだ半年ですが、個性豊かな生徒と、パワフルな先生方と楽しく頑張っています。

Editorial note: 新型コロナウイルス感染症拡大という厳しい事態に直面し、予測不可能な時代の中にもかかわらず、修了生たちの高知県や地元の子どもの健やかな成長を願いながら切磋琢磨している様子が伝わってきました。

それぞれが教職大学院で学んだことを生かしながら、教育課題の解決に向けて、それぞれの立場で活躍することを祈っています。

発行者：高知大学大学院教職実践高度化専攻長 柳林信彦

編集者：教職実践高度化専攻ニューズレター委員

発行日：2020年11月10日

事務局：教職実践高度化専攻附属学校教育研究センター

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1 (教職大学院係)

TEL 088-844-8457

E-mail ks33@kochi-u.ac.jp